

# 八戸短期大学に於ける音楽教育の指導

Anleitung in der musikalischen Ausbildung am  
Hachinohe Junior College

附田勢津子・田端 利則・佐藤 愛子  
中嶋 栄子・橋本 知子

**Übersicht** Die Fakultät für Frühpädagogik hält in ihren Lehrplanrichtlinien die „Wichtigkeit der musikalischen Ausbildung und Klavierunterricht als Pflichtunterricht“ hoch und setzt sie in ihren Ausbildungsaktivitäten um. Auch bei den Einstellungsprüfungen von Kinderkrippen und Kindergärten ist es inzwischen oft so, dass eine praktische Klavierprüfung abgelegt werden muss. Jedes Jahr wird von den Kinderkrippen und Kindergärten vor Ort auch eine Verbesserung der technischen Fertigkeiten beim Klavierspiel gefordert. Unter den neuen Studenten an der Fakultät für Frühpädagogik unserer Universität gibt es immer mehr Studenten, die erst mit dem Klavierlernen begonnen haben. Folglich habe ich mich dazu entschlossen, durch eine Untersuchung der gegenwärtigen Situation der Klavierausbildung an unserer Universität deren Problempunkte zu ergründen und diese Situation zu verbessern.

## 1. はじめに

幼児保育学科は保育士・幼稚園教諭の養成機関として43年の歴史を持ち、多くの保育者が地域社会で活躍している。

幼児保育学科は、「知的専門性と感性的専門性を有する実践的な保育専門職員の養成」と「愛と知性に富み健全で豊かな情操と調和をもとに社会発展に貢献する人材の育成」を教育目標に掲げ、カリキュラムポリシーに「保

育者に求められる情操を育む柱として音楽教育の重視とピアノレッスンを必修」と謳っている。また、保育所・幼稚園の就職採用試験においてピアノ実技試験が課される割合が多い。現場からは保育者に必要な弾き歌いのピアノ演奏技術の向上が求められている。

このような状況から、本学の音楽教育カリキュラムの全般を調査し、その問題点を探り

改善をはかることにした。

## 2. 幼児保育学科の音楽教育

幼児保育学科における音楽に関する授業は、1年次で、「音楽」「幼児音楽Ⅰ」「ピアノレッスンⅠ」、2年次で、「幼児音楽Ⅱ」「ピアノレッスンⅡ」「表現Ⅱ」、また、2学年共通の「音楽指導（合唱）」を実施している。

### 1年次

「音楽」：音楽理論の理解、自由表現活動の理解、美的音楽表現、リトミック

「幼児音楽Ⅰ」：楽典（音楽の基礎的知識、読譜力、演奏技能の習得）

「ピアノレッスンⅠ」：基礎的ピアノレッス

ン、童謡の弾き歌い

### 2年次

「表現Ⅱ」：総合表現であるオペレッタ、手遊び、自由表現、リトミック

「幼児音楽Ⅱ」：器楽合奏（奏法、スコアリーダーディング、合奏指導法、指揮）

「ピアノレッスンⅡ」：基礎的ピアノレッスン、童謡の弾き歌い

「音楽指導」：合唱（ハレルヤ、賛美歌）発声の基礎、ステージ発表

## 3. ピアノの基礎的教育（ピアノレッスンⅠ、Ⅱ）

ピアノレッスンは、個人レッスンを基本とし、5人の教員で担当している。学年を4コマに分割配置することにより、担当教員の1コマの学生は5～6名となり、毎週15分程度の個人レッスンが実施されている。毎週のレッスンは学生にとって大きな負担であるが技術技能の獲得の場となっている。

レッスンは入学時に実施する「ピアノ経験調査」により、A（バイエル教則本終了以上）、B（バイエル教則本程度）、C（幼児期に体験）、D（未経験）の4つのクラスに編成し、能力別レッスンを実施している。

レッスンは、教則本や楽曲を題材とした通常の「ピアノレッスン」と「童謡の弾き歌い」を2本の柱として実施展開している。

通常の「ピアノレッスン」では、主に演奏技術の向上を目的とし実施される。1年次前期（7月）・後期（12月）・2年次前期（7月）・後期（1月、卒業試験）の4回の実技試験を実施している。実技試験で演奏する曲は学生が担当教員と相談し、それぞれの実力に合わせて決定する。

「童謡の弾き歌い」は、コードの理解や読譜力をつけるとともに、より多くの童謡を弾き歌いできる力を育むことを目的として実施している。

1年次の夏休みに弾き歌いの課題を課し、1年次後期から弾き歌いの試験を実施している。試験は季節ごとに童謡を20～25曲指定し、それぞれ籤引きで演奏する。初心者にとっ

ては大変な負担となるが繰り返し練習することにより徐々に力を付けている。

また、保育実習や教育実習の準備も兼ねて、「さよならの歌」「おはよう」「お帰りの歌」や各年度の「保育士試験課題曲」を本学の基準で実施している。

童謡の弾き歌い試験

4～6月の歌 2年次（4月）

7～9月の歌 2年次（6月）

10～12月の歌 1年次（9月）・2年次（10月）

1～3月の歌 1年次（11月）・2年次（12月）

#### 4. 入学生のピアノ経験調査

幼児保育学科では、毎年レッスンのクラス編成のため、入学後にピアノ経験調査を実施している。図1、表1は2005（平成17年）から2012（平成24年）の8年間の入学時のピアノ経験の状況である。

本学幼児保育学科入学生に初心者（C：幼児期に体験、D：未経験）が占める割合は平均65%である。2011年に見られるように初心者が80%を超える年度もあり、初心者層の育成と経験者（A：バイエル教則本終了以上、B：バイエル教則本）の教育が幼児保育学科の課題である。

初心者（C：幼児期に体験、D：未経験）は、基礎的な知識・技能を付けることを目的に、バイエル教則本（44番）から開始する。1年次でバイエル教則本終了程度の力をつけることを目安に、個人レッスンを行っている。未達成者には個別指導を実施し対応している。2年次ではブルグミュラー25の練習曲やソナチネ曲集等の任意の楽曲に取り組む。

経験者（A：バイエル教則本終了以上、B：バイエル教則本）は、その実力に応じ演奏技術の向上、音楽性の醸成、音楽体験の拡大を目的にレッスンを行う。経験者には定期試験だ

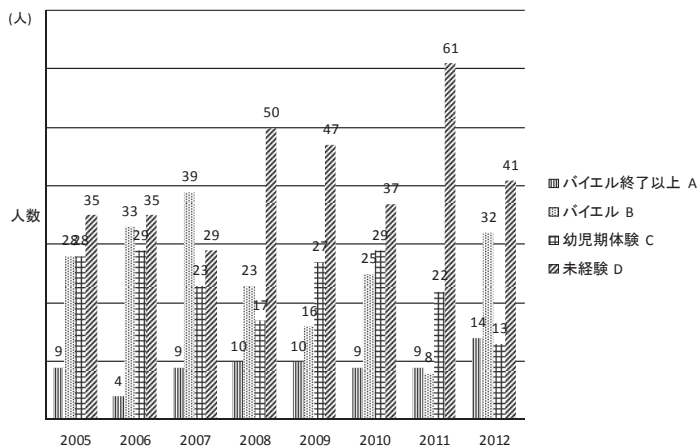


図1 入学時のピアノ経験調査

表1 初心者の割合

(%)

入学年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
初心者の割合 (%)	63	64	52	67	74	67	83	54

けではなく、モチベーションの維持を図ることを目的に学生祭における幼児保育学科ピアノコンサートや卒業式・入学式の代表者によるピアノ演奏などが企画されている。(Bは、系列校の保育福祉科保育コース出身の学生が多く含まれる)

学生が保育士資格、幼稚園教諭の資格を取得するためには短大生活2年の短期間の中で数多くの科目と実習(保育実習、施設実習、教育実習)を履修しなければならない。その

ような状況で毎週のピアノレッスンにむけて練習の時間を確保することは大きな負担となっていることも事実である。学生にとってピアノレッスンは他の学生との進度の比較に苦しみながらも、上達の喜びや達成感を味わう場でもある。また、レッスン担当教員は単に音楽指導に止まらず、学生が保育者として、人間として成長する大切な教育の場と考え指導にあたっている。

## 5. 卒業試験におけるピアノ演奏曲

卒業試験におけるピアノ実技試験は、学生にとって短大生活最後の演奏となり、2年間の集大成として特別な思いで選曲し、真剣に練習準備をする。また、実力以上の曲に取り組む傾向もある。卒業試験における演奏にはそれぞれの学生の二年間のピアノへの取り組みが現れる。

図2は2006(平成18年)から2012(平成

24年)の卒業試験曲の状況である。

- a1 (a) 任意の楽曲(ショパン、ベートーベンなど)
- a2 (b) ソナチネ曲集など
- a3 (c) ブルグミュラー 25練習曲後半
- b (d) ブルグミュラー 25練習曲前半
- c (e) 童謡弾き歌い、バイエル教則本

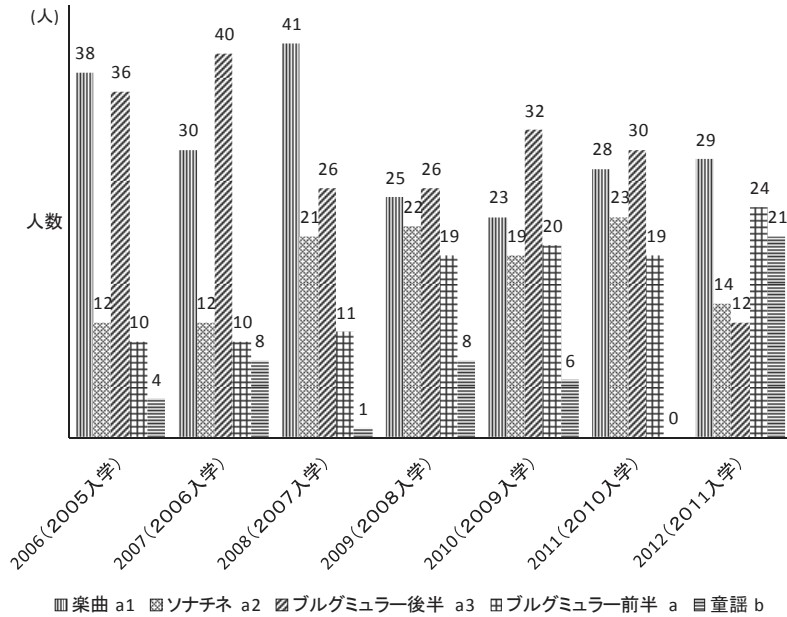


図 2 卒業試験曲の調査

卒業と同時に、日常の保育活動にピアノを活用しなければならない幼児保育学科の学生の卒業試験曲を A: (上級、目標達成) B: (中級 ほぼ達成) C: (初級 未達成) に分類すると以下のようなになる。

A: (上級、目標達成) … (楽曲 a1)、(ソ

ナチネ a2)

B: (中級 ほぼ達成) … (ブルグミュラー後半 a3)

C: (初級 未達成) … (ブルグミュラー前半 a) b) (童謡、c)

### 5-1 卒業試験全体の曲

表 2 卒業試験曲の選択状況 (%)

入学年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
A (達成)	50	42	62	47	42	51	43
B (ほぼ達成)	36	40	26	26	32	30	12
C (未達成)	14	15	12	27	26	19	45

入学時のピアノ初心者の割合が 60% を超えるが、卒業時の演奏曲は上級・中級の演奏比率は 70% を超している。本学学生の努力とともにピアノレッスンの指導の成果でもあ

る。2008 年以降の入学生は初心者の割合が多く全体的なレベル低下が著しくなっている。特に初心者の伸び悩みが顕著であり初心者の指導が今後の大きな課題である。

## 5-2 初心者の演奏曲

表3 初心者の卒業試験曲の選択状況 (%)

入学年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
A 上級	58	37	60	37	31	37	35
B 中級	35	45	29	27	35	39	13
C 初級	7	7	11	36	34	24	52

バイエル教則本45番からスタートした初心者が卒業試験に、A(上級)、B(中級)の曲に取り組み演奏している姿には目をみはるものがある。多くの学生がレッスンの目標を達成していることを表している。学生の真剣な取り組みと指導の成果がみられる。苦手意識や劣等感を持ち、ピアノから逃避しつつあ

るC(初級)の学生の指導が今後の課題である。

2008年度の入学生より、C(下級)の割合が急増しているが、2008年から3年間は入学者が定員に満たない年度であり、例年より合格のレベルが下げられ低学力の学生が入学しているためと思われる。

## 5-3 経験者(B)の演奏曲

表4 経験者(B)の卒業試験曲の選択状況 (%)

入学年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
A 上級	69	40	60	65	50	76	87
B 中級	35	38	26	20	36	16	0
C 初級	6	22	14	15	14	8	13

経験者(B)は専門課程入試の入学者が大きな割合を占めている。高校でピアノを履修してきた学生が多い。短大で順調に力をつけていく学生が多い反面、B(中級)やC(初級)

の学生の割合も多く今後の大きな課題である。系列校との情報交換など交流を密にしていかなければならない。

## 5-4 経験者(上級A)の演奏曲

表5 経験者(上級A)の卒業試験曲の選択状況 (%)

入学年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
A 上級	82	100	100	67	89	89	6
B 中級	18	0	0	33	11	11	1
C 初級	0	0	0	0	0	0	1

上級の学生は、他の学生より余裕を持ち、一部の停滞者はみられるものの良好な状況にある。互いに競争意識をもち取り組んでいる。

ピアノはレッスン前の練習（事前学習）が不可欠である。経験者（B）で停滞する学生や初心者（C（初級））の学生は事前学習がほとんど成されず、レッスンの時間を消化する

のに汲々としている。長時間のアルバイトなどに時間がとられ、本来の目的を見失っている者も見られる。このような学生や低学力者に対し、レッスン担当者は生活指導も含め、レッスンを行わなければならない状況にある。

## 6. 音楽指導の現状と課題

幼児保育学科はカリキュラムポリシーに音楽教育の重視とピアノレッスンの必修を謳っている。ピアノレッスン室（40室）や幼児保育学科の学生が生活する場にピアノが準備され比較的恵まれた環境にある。ピアノレッスンの体制も、指導教員5名（専任3、非常勤2）で、全学生が毎週、個人レッスンが受講できる状況となっている。

本学科の特徴として初心者の割合が多いことと系列高校からの入学者が多いことがあげられる。本学は入学者の60～80%がピアノ初心者である。初心者（ピアノ未経験者、幼児期体験）の多くは全く楽譜が読めない状況からのスタートとなる。2年間という短期間にピアノ教育以前の基礎訓練や基礎知識の習得から取り組まなければならないのが現状である。

ピアノに興味を持ち順調に進んでいく学生が多くいる半面、苦手意識や劣等感を持ちピアノからの逃避、そして本来の目的意識を喪失し資格取得の断念や退学へと繋がっていくケースも見られる。今後の課題としてこのような学生の指導に取り組んでいかなければならない。また、2008年度の入学生より、C（初

級）の演奏曲の割合が急増しているが、2008年度から3年間は入学者が定員に満たない年度であり例年より合格レベルが下げられ低学力の学生が入学しているためと思われる。ピアノレッスンは能力別編成を実施しているが、意欲に欠ける学生が複数いることにより他の学生も低レベルに終始し諦める傾向がみられる。

系列高校からの入学者は専門課程入試の入学者が大半である。高校でピアノを履修し、専門課程の課題（バイエル80番以上、任意の童謡の弾き歌い）をクリアしている学生である。短大で順調に力をつけていく学生が多い反面、約40%の学生が伸び悩み、B（中級）やC（初級）の曲を演奏して卒業していく現状にある。

停滞する学生の割合が多く今後の大きな課題である。これは音楽科だけの問題ではないが系列校との情報交換や交流を密にしていかなければならない。入学後に意欲が低下しないような指導体制を作らなければならない。

幼児保育学科の入学生の60～80%が初心者としてピアノを始め、卒業時には70%以上の学生が上級（A）中級（B）の曲を弾い

て卒業していく状況は幼児保育の目標をクリアしていると思うが、底辺の学生のレベルアップをはかっていかなければならない。

幼稚園や保育園の採用試験においてもピアノ試験が課される割合が高く、現場からもピアノ演奏技術の向上が求められている。保育士・幼稚園教諭の養成機関としての八戸短期大学は地域社会より有能な保育士や幼児教育者の養成を期待されている。地域社会の要望にこたえるべく努力しなければならない。

本学は開学以来男女共学の短期大学として

発足し、開学時より男子学生の入学を歓迎してきた。現在では男子学生は全体の1割を占め、地域の幼稚園や保育園等の施設での活躍が社会に認められ本来の意図が達成されている。今後も男子学生の入学に対して門戸を広げ地域社会の要望に沿っていきたい。

ピアノの基礎的教育の項でも取り上げたが、基礎的ピアノ教育と弾き歌いの課題は常に連動しながら繰り返し反復教育を徹底させている。具体的には2年次開始時に、1年次後半の課題を復習し、学習強化に努めている。

## 7. お わ り に

保育者養成校として求められる各科目の学習にはその学習成果が問われている所である。本学の幼児保育学科の実技指導は開学以来個人の技術レベルを尊重したきめ細かい指導を展開してきた。通常の基礎的な「ピアノレッスン」と「童謡の弾き歌い」の技術技能の獲得を目指した学習計画の指導方針を踏まえ、指導者の方針を解説しつつ、学生の一人ひとりが受け入れられる指導を目ざして来た。幸いに本学学生は指導者の意図を汲みその方針を意欲的に理解し実技実践に努力している。

技術的な技能の習得には継続的な訓練が必

要であり、練習の中断によるモチベーションの減衰を来さないことを図るために計画した。保育者として望まれる技術の獲得には、入学時の事情により、必要な練習時間を満たす事が出来なかった学生に対し、特別カリキュラムを編成し補講の機会を設け、細かな指導を実施する計画が立てられ、すでに実行に移行しつつある。

2012年度入学生より学期末試験後の2、3月の春季休業中に補講の実施を開始した。この結果については順次報告していく予定である。